

(別紙1-1)《会派用》

2024年9月9日

狭山市議会議長

太田博希様

会派名 日本共産党

代表者氏名 大沢 えみ子



研 修 会 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。

代 表 者 大沢えみ子 様

研修者(代表)氏名 橋 本 亜 矢 ㊞

研 修 会 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

1 期 間 2024年8月29日(木)

2 研修会名

第69回市町村議会議員研修会

3 研修会主催者

企画：自治体問題研究所 主催：自治体研究社

4 開催場所

ZOOM研修(日本共産党控室)

5 研修会参加人数 3 人

参加者は次のとおり

大沢えみ子 衣川千代子 橋本亜矢

6 研修会スケジュール

2024年8月29日(木) Zoom開催

決算議会に向けた「自治体財政制度」を学ぶ

まちの財政を身近なものに！決算議会を前に、楽しく学んで議員力をアップ

7 研修会概要

別紙のとおり

講師：神奈川自治体問題研究所 内山正徳 氏

1 基本的なしくみを知る

・「財政は市町村長の私物ではなく主権者である住民のもの」との立場で、財政に関する資料（広報誌・予算書・決算書などなど）を見ることの大切さが語られた。議員は様々な資料を入手できる立場にあるが、多くの市民が入手できる広報などに、1年間どういうことがあって、どういう問題点があったのかがわかる内容の財政指標を掲載させることも重要との指摘があった。総務省など国でも地方公共団体の財政状況資料集を公表しているので、積極的に活用することが推奨された。

・国と地方自治体の関係では、令和4年度の歳入119・4兆円のうち、国税が64%、地方税は36%だったが、歳出では44%が国、56%が地方分となっている。地方自治体が行う分が多いため、地方交付税交付金などで国民へのサービス還元=必要な財源を保障させていくことが重要とのこと。

・『予算』とは、「1年間にこれだけの仕事をこれだけの税金を使って実行しますという見積もり」で、「まちがどのような行政施策を実行しようとしているのか、そこに住民要求が反映され、本当に住民の福祉や暮らしの向上に役立っているのか」との視点でチェックすること、またそこから見える課題や政策を予算に反映させるためにはタイミングよく早い段階で声を上げていくことが大事であることの指摘があった。

・『決算』は、「目的通りに執行されたか、効果があったか、過大な見積もりはなかったか、住民の暮らしや生業を支えられたのか、行政水準が向上したのか」といった点でのチェックを行うことや、積立金や地方債の変化も経年で見えていくと、まちの財政が見えてくる。また、会計年度任用職員の実態や待遇、地方自治体を支える重要な仕事をしている人達が不安定雇用でいいのか、といった視点も今後重要になるとの指摘があった。

2 資料（主に決算カード）を使ってまちの財政に接近

・後半は、実際に決算カードを使って、用語や見方を解説。狭山市の令和4年度決算カードも使用して解説が行われた。性質別決算額などを経年で比較すると使い方が見える。1年だけではなく10年間くらいの推移を見ると自分の自治体の状況が見えてくる。例えば、「コロナで財政が大変と言われた自治体もあったが、市税収入は大きく変動していない」など、実態を見ることは重要との指摘があった。

・近年、経常収支比率など、各種財政の指標についての見方が変わってきている。この間、総務省が「地方公共団体の基金の設立状況等に関する調査結果のポイント及び分析」という調査を実施している。財政調整基金の規模について「標準財政規模の5～

20%」と答えたところが多いが、自治体としては溜め込むだけでなく、上手に使っていかなくてはいけない。「貯金は善で借金が悪」ではなく、何をどう使うかを考えていく必要があるとの指摘があった。

【研修を終えての所感】

財政の見方について改めて基礎から学べる内容だった。近年の状況を踏まえて数値の見方も変わっていることや、基金の積立についても国の調査が行われていることを知った。経常収支比率の全国平均が90%を超えており、これまで言われていた「70～80が健全」という見方はかなり古くなっていることは新たな発見で、職員等が多いことで住民の満足度が上がっているならばそれは良いこと、という指摘は非常に納得するものであった。今日の研修を参考に狭山市の財政分析を改めて行なっていきたい。（大沢）

【研修を終えての所感】

自治体の財政は難しいと考えていましたが、しっかり取り組んでいくべきだと考え直しました。数字を追っていくことは、面白くて興味をそそられます。「数値の何パーセントが健全な自治体といえる」と聞くと、そうあらねばと思ってしまう。しかし、講師から「財政分析で数値を追っていくと指数や指標の健全性を追い求めることになり、住民サービスの低下、負担増、職員や議員の削減、人件費の削減、公的責任の放棄という結果にならざるを得ないことになってしまう」と聞き、自分もそうなりそうだと思います。今後は、「財政の役割は、住民が健康で文化的な生活を送るために必要な施策・サービスを提供することにある」という視点で、自治体の財政分析に取り組んでいこうと思いました。（衣川）

【研修を終えての所感】

財政に関して、基本的な見方を学ぶことが出来た。地方交付税交付金をどう考えるかについてヒントがあった。決算で見ると、赤字は決して悪い事ではない。住民の意見をどれだけ反映できるか、マンパワーは重要な財産でもある視点を忘れないようにしていきたい。またその自治体別の課題も見落としてはいけない点である。予算と決算を通して、当市の今後の姿をどう形作るのか、行政水準の向上はどうやったら実現できるのか考えていきたい。（橋本）